

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495600452	事業の開始年月日	平成30年3月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム		
所在地	(215-0005) 神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘1-16-6		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年11月25日	評価結果 市町村受理日	令和5年6月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

食事（おやつを含め）を楽しんでいただくために、定期的に手作りのおやつを提供したり、一部の利用者の方も食事作りに参加できるようなイベントに力をいれています。また壁面の装飾等をご利用者様と職員の共同製作しています。二か月に1回の新百合通信を通して、上記のご様子をご家族様にお伝えしています。現在、感染症対策をした上で、施設周辺の散歩や面会を再開しています。また、ご希望のあるご家族様にはLINEやZOOMを利用した、ご家族様との面会を希望に応じて実施しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年3月27日	評価機関 評価決定日	令和5年5月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急線「新百合ヶ丘」駅からバスで約10分程度乗車し、バス停「千代ヶ丘一丁目」下車、徒歩3分ほどの場所にあります。道路の向かいに保育園があり園児の元気な姿も見ることができます。周りは閑静な住宅街です。敷地内には広い庭と駐車場もあるので、晴れた日には事業所の共有空間の居間からは富士山が眺められます。

<優れている点>

コロナ初動対応の手引きを作成して、その中には入退館管理表を毎日担当者を決めて管理しています。運営推進会議や入所している利用者、新規利用検討する家族にもオンラインで施設の見学や面談もできるような取り組みが、昨年からは始まっています。法人が開催しているヒューマンライフケアテクニカルマイスターについて、職員は介護の技術を認定する制度により、取得した等級で、独自のやり方ではなく、正しい知識や技術を磨くことで、介護の品質管理を確立して利用者の安心・安全につなげています。

<工夫点>

料理の得意な職員が中心となり利用者も一緒におやつ作りをしています。バースデーケーキやフルーツケーキ、シフォンケーキなどケーキを主体としたものを作り利用者に喜ばれています。利用者はおやつ作りの道具などの後片付けにも参加しています。壁面装飾として、各行事ごとにみんなで貼り絵などの大作を作成し楽しんでいきます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は作成し掲示している。実践につなげられるように日々のサービスを行っているが、共有し全員が実施できているとは言えない。	法人理念は「笑顔」と「こころ」いつでも人が真ん中から。」として、人と笑顔を尊重しています。事業所の理念は「面目躍如」人、笑顔、楽しい生活の三本柱です。利用者が、毎日の暮らしに潤いがあり、事業所である家にいることが楽しいという生活を実践できるよう職員が手伝っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は、地域交流スペースの貸し出しなどで交流があったが、現在はコロナウイルスの影響もあり交流が持ていない。	地域や自治会とは1階の地域交流スペースで催し物の開催や、地域で部屋を自由に利用できるようにしていました。現在コロナ禍で地域との交流は難しいですが、有楽自治会とは自治会費のやり取りや、回覧板などでつながりを継続して交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流スペースを貸し出したり、ボランティア演奏などを行っていただくことで、認知症の方との関りを持っていただいたり理解に努めていたが、現在はコロナウイルスの影響もあり行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今までコロナウイルスの影響により開催を中止していた。ご家族には定期的に書面で状況はお伝えしている。12月からLINEを利用して運営推進会議を再開予定。	昨年の10月までは運営推進会議の報告書を作成して郵送のみとしていましたが、12月からはSNSのテレビ電話を使用し、地域包括支援センターや、家族の参加も実現しています。新たな運営推進会議の形で開催しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護課など関係機関と必要時に連絡をとっている。ご家族から相談がある時に、生活保護課や障害支援課と連携して対応しているケースもある。(ネットワークミーティングに参加)	麻生区の高齢障害課や生活保護課と、連携して利用者の相談や報告をしています。困難事例も報告し対応ができた事例もあります。川崎市主催の高津タウンミーティングでは成年後見人制度や障害者支援について協力関係を構築しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月に1度、身体拘束廃止委員会を行っている。身体拘束にあたらないようにケアを心掛けている。身体拘束について正しく理解するよう自身でも調べている。	身体拘束廃止のマニュアル及び指針を作成して、2022年度の年間計画に基づき、年4回の身体拘束廃止委員会を開催し会議の議事録を作っています。研修会は年間2回実施する事で、改善計画を作成し、拘束のチェックシートで確認しながら身体拘束のないケアの実践を心がけています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会で職員間でも話し合い、注意し防止に努めている。研修はしたが、それだけでは学ぶ機会が少ないとも思う。注意はしているが不安になることもある。	虐待防止のマニュアル及び指針を作成して、2022年度の年間計画に基づき、年2回の虐待検討会議を開催し会議の議事録を作っています。高齢者虐待についての研修会は年間1回実施する事で、改善計画を作成し、虐待をしないケアの実践を心がけています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	計画作成が関係者と話し合いや対応を行っている。現状では、研修などで学ぶ機会を設けることはできていないが、個々で勉強し理解しようとしている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分にご理解をいただけるよう時間をとり、質疑応答を行いながら対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在は電話でのやり取りが主ではあるが、ご来訪の際にも、ご家族とお話しをご要望等があればお聞きしている。ご利用者については、日頃の交流の中で要望を聞き、反映できることはしている。	コロナ感染症対策で面会制限をしていましたが、顔を見ての面会がしたいという家族の要望から、SNS活用による、オンライン面会を実施しています。自粛していた理美容の希望にも、対応を再開しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	計画作成担当者がユニット間でのミーティングや日頃のコミュニケーションの中から意見などを聞き出し、反映に繋げている。	フロアー会議や全体会議で職員からの意見について、コメントを入れられるような仕組みを作り、意見を反映できる体制としています。清掃に力を入れるために掃除道具購入やレクリエーションでお菓子作りの備品の購入など対応しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	昇給制度もあり、職場環境等の整備に努めている。	法人独自の人事考課などによる昇給制度を整備し、職員の勤務などの把握をしています。処遇改善手当についても、給料がアップすることで、職員はやりがいのある仕事として、利用者にも前向きな姿勢で働けるような職場環境に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ケアテクニカルマイスターや認知所KAIGOマイスターなどの社内資格の保有率は他拠点に比べ高い。	法人では、8段階のテクニカルマイスター制度を持ち、eラーニングと技術試験で認定しています。職員は自由に受験することができます。法人も職員もレベル把握が出来、キャリアアップに繋がっています。また、法人以外の外部研修を受けることができます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	HLC人材開発サポートが企画するZOOM研修の機会も増え、社内の他事業所の職員と関われる機会が増えている。役職（管理者や計画作成担当）や状況（中途入社や新卒）などに応じて参加回数は異なるが、全員研修は受けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用前には、事前訪問にてご本人の様子を伺ったり、お話をする時間を設けるようにしています。利用開始当初は不安なこともあるので、ご本人の話を聞いて不安な気持ちを取り除けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用前の見学や、事前訪問、契約時などにお話しする時間を設け、ご家族の要望等を伺っています。また、ご希望のある家族に対してはLINEやメールでやり取りしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お話を伺ったり、事前訪問をした際に必要な支援を見極めている。また、ご利用開始後もご本人やご家族のお話を聞いたり、施設でのご様子を伺いながらサービス内容については調整している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭きや洗濯ものたたみなどの家事を一緒に行っている。施設での役割を持ってもらうため、当番表も作り毎日の日課としてできることを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在は、コロナウイルスの影響から面会への制限があるが、電話でお話ししていただいたりご家族との関係は大切にしている。ご本人への必要な支援については、適宜連絡をとって協力いただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルスの影響により、現在は面会や外出が制限されている状況です。電話でお話しして頂いたり現在、できることを支援している。	コロナ禍により馴染みの関係が制限されている現状です。しかし、コロナ禍でも入居中に利用者の親族の葬儀などがあつた際には、外出もしています。今回久しぶりに親族に会えたことで、利用者本人が納得できた支援となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	交流を持てるようにしている。気の合う方と作業を一緒にしていただいたり、複数人でお話ができるよう職員が介入したり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	状況に応じて、ご家族様たちとご連絡し		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナウイルスの影響により散歩や外出についての制限もあり、現在はご本人の意向を伺うだけになってしまうところもある。施設内でできることに限っては検討しできることを実行している。	アセスメントや職員と2人になれる入浴時などに利用者の意向を聞ける機会があります。意思を表出し難い人が富士山が見える所に住んでいたとの情報を得て、富士山が見える廊下に利用者を誘い思い出話から表情の変化を読み取るなどして意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報以外にも、日頃の交流の中からお本人の生活歴等を聞くようにしている。極力、ご本人に聞いて理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の変化があるため、調子をみるようにしている。顔色や表情、歩き方など変化があるか注意して観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングや日々の申し送りのなかで意見等を出し合い、日々のケアにて実践し、介護計画に反映している。	初回は1ヶ月、その後は3ヶ月ごとに、ケアの基準書の記録を基にモニタリングをしています。長期目標（6ヶ月）と介護保険更新時に見直し、状況に変化があれば随時見直します。家族や職員、医師、マッサージ師等の意見を取り入れ介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には詳細を書くように意識している。そのほかに申し送りノートを使い、情報共有に努めている。個別に支援を実施しての様子や、新しい支援を実施しての状況を共有できるよう申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナウイルスの影響もあり、外出制限もある中での対応のためできていない部分もある。施設内でできることに関しては柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響もあり、できていない部分もある。地域とのかかわりがなかなか持てない状況のため、施設内でご本人が楽しめる取り組みをできるよう工夫している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2回の往診にて対応している。必要時は外部受診も行っている。	利用者全員が24時間対応の協力医療機関（内科）2院から選択し、月2回受診しています。週に1回看護師は健康観察で、歯科医は希望者の治療や口腔ケアで来訪しています。整形外科などの専門医の受診は、職員や家族が対応し「申し送り」で情報共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問看護が入る。その際に日頃の様子等を伝え、相談も行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換等を行っている。退院については受け入れ態勢を整え、ご本人の状況把握のためカンファレンスに参加したり退院前に面会するなど状態把握に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時の契約の際に医師確認書を作成している。管理者からの説明があり、職員全員が共有できていると思う。本人や家族の意向をふまえ、往診医、訪問看護師、介護職員が連携をとれている。	家族等に重度化や終末期に向けた方針を契約時に説明し、意思確認書を交わしています。医師が終末期と判断した際は、医師の説明のもと家族等と事業所の3者で方針を共有し、管理者の指導のもと手順書に従い取り組み、今年度も看取りを経験しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には必要な措置をとり医療関係に連絡を行っている。対応方法についてはフローを貼りだしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を行っている。地域との協力体制については、まだ築ききれしていない。	日中の火災を想定した避難訓練を行うと同時に「防災備蓄棚卸表」を作成し備蓄管理をしています。職員を含む14日程の食品と簡易トイレやカセットコンロ、充電器などの備品を準備しています。背丈のある居室の洋服ダンスに耐震対策を施しています。	新型コロナ終息後には、地域の人に協力依頼ができるよう、自治会などと相互協力を繋がる提案をして、協力体制を築かれることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	相手を敬い話すよう心掛けている。対応についてもミーティングで話したり、注意したほうが良い点についてはどのように改善していくか検討している。	概ね全職員が取得している法人認定「認知症KAIGOマイスター」研修時に人格の尊重などを学び、言動に注意を払っています。往診時は、受診内容に応じて地域交流室や居室などで受診しています。プライバシーに配慮し同性介助の希望があれば応じています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定の一環とし、14時30分にはメニュー表の中から好きな飲みものも選んでいただくようにしている。ご本人の思いや希望を言えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	強制するのではなく、自身でやりたいことを決めていただくようにしている。ご本人の希望に合わせ、臨機応変に動くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で選んでいただくようにしているが、季節に合った服装になるように助言はしている。お洋服が汚れてしまった際には着替えを促すなどしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	下膳や食器拭きなど片付けは一緒に行っている。糖尿病の傾向がある方にはステビアなどを使用して甘味をつけて飲料水を提供している。	利用者の食事形態に合わせミキサー食などにも対応しています。利用者が好む寿司や蕎麦を行事の際に提供もしています。おやつレクリエーションでは業者から様々なパンを購入し、「パン屋さん」を模してパンを並べ、買物風景などを再現した「パン祭り」を行っています。買い物動作を交えながら楽しく食事ができる工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々、記録をしている。水分のなかなかとれない方については、好きな飲み物を提供したり、ゼリーを提供するなどして水分をとって頂いている。食事については、体重等も確認しながら量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に声かけし口腔ケアを実施している。訪問歯科を受けている方は定期的にクリーニングを受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつの使用はなるべくせず、トイレにて排泄できるよう誘導等を行っている。実際、入居時に日中、バルーンとオムツ対応をしていた方がいたが、現在、バルーンなしでリハパンとパットに変更になったご利用者様もいる。	利用者の排泄パターンを把握して必要な人にトイレでの排泄を支援しています。排泄の失敗は、プライドに配慮し対応しています。落ち着かないなど排泄に繋がる様子をキャッチしてトイレ誘導し、布パンツの使用が維持できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方については、医療機関とも連携をとっている。便秘がちの方には牛乳を提供したり、水分を多くとっていただくよう支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	気乗りしない日は翌日にずらしたり、清拭で対応している。	利用者は概ね週2回、午前中に入浴しています。入浴を拒む人には強要せず、声掛けに工夫をして促しています。ヒートショック対策をしています。入浴剤を使用したり熱いお湯を好む人には湯温の設定を変えて、入浴を楽しむよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に応じて休息を促したりしている。21時消灯とはしているが、ご本人の習慣に合わせてながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療関係とも連携を図りながら対応している。薬の変更時には申し送りにて職員間で共有し、状態観察等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナウイルスの影響もあり、現在は外出ができていない。役割をもっていたために当番表にてその日の役割を分担している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナウイルスの影響もあり、行えていない。外出は12月中に再開予定。	コロナ禍で遠出の外出は法人が禁止しており、感染状況を見極めながら散歩をしています。外出を好まない人は、駐車場で外気浴をしています。外出できない代わりに、作品作りなどのレクリエーションに重点を置いて実施し、楽しめるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預かり金として、お小遣いをお預かりしている。必要なものについては、ご家族と相談しながら購入している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様のご要望があり、ご本人が電話したくてもつなげられないケースが3件ある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気候に合わせた温度調節を行っている。	食事作りの際に五感の刺激が得られるリビングダイニングとなっています。カーテンの開閉で陽射しの刺激を調節しています。壁面に手作りの桜の花などを装飾し季節を感じられるようにしています。掃除の仕方の見直しや、加湿機能付きの空気清浄機を設置して住環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方と席が近くなるように席を配置している。ソファーにてくつろいで頂くこともある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅から家具などをお持ち込みいただく方もおり、希望にあわせて対応している。	居室には、照明、電動ベッド、エアコン、カーテン、整理ダンス、洋ダンスが備え付けられています。利用者は、机、イス、テレビ、写真、仏壇、六法全書、古銭のコレクションなど、好みの物や馴染みの品を持ち込み、居心地よく過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分でできることを行っている。その際に危険のないように導線部にはものを置かないなど気を付け、職員間でも共有し、その時の状態に応じて対応している。		

事業所名	ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は作成し掲示している。実践につなげられるように日々のサービスを行っているが、共有し全員が実施できているとは言えない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は、地域交流スペースの貸し出しなどで交流があったが、現在はコロナウイルスの影響もあり交流が持てていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流スペースを貸し出したり、ボランティア演奏などを行っていただくことで、認知症の方との関りを持っていただいたり理解に努めていたが、現在はコロナウイルスの影響もあり行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今までコロナウイルスの影響により開催を中止していた。ご家族には定期的に書面で状況はお伝えしている。12月からLINEを利用して運営推進会議を再開予定。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護課など関係機関と必要時に連絡をとっている。ご家族から相談がある時に、生活保護課や障害支援課と連携して対応しているケースもある。 (ネットワークミーティングに参加)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月に1度、身体拘束廃止委員会を行っている。身体拘束にあたらないようにケアを心掛けている。身体拘束について正しく理解するよう自身でも調べている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会で職員間でも話し合い、注意し防止に努めている。研修はしたが、それだけでは学ぶ機会が少ないとも思う。注意はしているが不安になることもある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	計画作成が関係者と話し合いや対応を行っている。現状では、研修などで学ぶ機会を設けることはできていないが、個々で勉強し理解しようとしている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分なお理解をいただけるよう時間をとり、質疑応答を行いながら対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在は電話でのやり取りが主ではあるが、ご来訪の際にも、ご家族とお話しをご要望等があればお聞きしている。ご利用者については、日頃の交流の中で要望を聞き、反映できることはしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	計画作成担当者がユニット間でのミーティングや日頃のコミュニケーションの中から意見などを聞き出し、反映に繋げている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	昇給制度もあり、職場環境等の整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ケアテクニカルマイスターや認知所KAIGOマイスターなどの社内資格の保有率は他拠点に比べ高い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	HLC人材開発サポートが企画するZOOM研修の機会も増え、社内の他事業所の職員と関われる機会が増えている。役職（管理者や計画作成担当）や状況（中途入社や新卒）などに応じて参加回数は異なるが、全員研修は受けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用前には、事前訪問にてご本人のご様子を伺ったり、お話をする時間を設けるようにしています。利用開始当初は不安なこともあるので、ご本人の話聞いて不安な気持ちを取り除けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用前の見学や、事前訪問、契約時などにお話しする時間を設け、ご家族の要望等を伺っています。また、ご希望のある家族に対してはLINEやメールでやり取りしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お話を伺ったり、事前訪問をした際に必要な支援を見極めている。また、ご利用開始後もご本人やご家族のお話を聞いたり、施設でのご様子を伺いながらサービス内容については調整している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭きや洗濯ものたたみなどの家事を一緒に行っている。施設での役割を持ってもらうため、当番表も作り毎日の日課としてできることを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在は、コロナウイルスの影響から面会への制限があるが、電話でお話ししていただいたりご家族との関係は大切にしている。ご本人への必要な支援については、適宜連絡をとって協力いただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルスの影響により、現在は面会や外出が制限されている状況です。電話でお話しして頂いたり現在、できることを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	交流を持てるようにしている。気の合う方と作業を一緒にしていただいたり、複数人でお話ができるよう職員が介入したり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	状況に応じて、ご家族様たちとご連絡している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナウイルスの影響により散歩や外出についての制限もあり、現在はご本人の意向を伺うだけになってしまうところもある。施設内でできることに関しては検討しできることを実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報以外にも、日頃の交流の中らご本人の生活歴等を聞くようにしている。極力、ご本人に聞いて理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の変化があるため、調子を見るようにしている。顔色や表情、歩き方など変化があるか注意して観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングや日々の申し送りのなかで意見等を出し合い、日々のケアにて実践し、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には詳細を書くように意識している。そのほかに申し送りノートを使い、情報共有に努めている。個別に支援を実施しての様子や、新しい支援を実施しての状況を共有できるように申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナウイルスの影響もあり、外出制限もある中での対応のためできていない部分もある。施設内でできることに関しては柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響もあり、できていない部分もある。地域とのかかわりがなかなか持てない状況のため、施設内でご本人が楽しめる取り組みをできるよう工夫している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2回の往診にて対応している。必要時は外部受診も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問看護が入る。その際に日頃の様子等を伝え、相談も行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換等を行っている。退院については受け入れ態勢を整え、ご本人の状況把握のためカンファレンスに参加したり退院前に面会するなど状態把握に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時の契約の際に医師確認書を作成している。管理者からの説明があり、職員全員が共有できていると思う。本人や家族の意向をふまえ、往診医、訪問看護師、介護職員が連携をとれている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には必要な措置をとり医療関係に連絡を行っている。対応方法についてはフローを貼りだしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を行っている。地域との協力体制については、まだ築ききれしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	相手を敬い話すよう心掛けている。対応についてもミーティングで話したり、注意したほうがいい点についてはどのように改善していくか検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定の一環とし、14時にはメニュー表の中から好きな飲みものも選んでいただくようにしている。ご本人の思いや希望を言えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	強制するのではなく、自身でやりたいことを決めていただくようにしている。ご本人の希望に合わせ、臨機応変に動くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で選んでいただくようにしているが、季節に合った服装になるように助言はしている。お洋服が汚れてしまった際には着替えを促すなどしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	下膳や食器拭きなど片付けは一緒に行っている。糖尿病の傾向がある方にはステビアなどを使用して甘味をつけて飲料水を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々、記録をしている。水分のなかなかとれない方については、好きな飲み物を提供したり、ゼリーを提供するなどして水分をとって頂いている。食事については、体重等も確認しながら量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に声かけし口腔ケアを実施している。訪問歯科を受けている方は定期的にクリーニングを受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつの使用はなるべくせず、トイレにて排泄できるよう誘導等を行っている。実際、入居時に日中、バルーンとオムツ対応をしていた方がいたが、現在、バルーンなしでリハパンとパットに変更になったご利用者様もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方については、医療機関とも連携をとっている。便秘がちの方には牛乳を提供したり、水分を多くとっていただくよう支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	気乗りしない日は翌日にずらしたり、清拭で対応している。ご本人のタイミングに合わせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に応じて休息を促したりしている。21時消灯とはしているが、ご本人の習慣に合わせてながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療関係とも連携を図りながら対応している。薬の変更時には申し送りにて職員間で共有し、状態観察等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナウイルスの影響もあり、現在は外出ができていない。役割をもっていたるために当番表にてその日の役割を分担している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナウイルスの影響もあり、行えていない。外出は12月中に再開予定。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預かり金として、お小遣いをお預かりしている。必要なものについては、ご家族と相談しながら購入している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様のご要望があり、ご本人が電話したくてもつなげられないケースが1件ある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気候に合わせた温度調節を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方と席が近くなるように席を配置している。ソファーにてくつろいで頂くこともある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅から家具などをお持ち込みいただく方もおり、希望にあわせて対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分でできることを行っている。その際に危険のないように導線部にはものを置かないなど気を付け、職員間でも共有し、その時の状態に応じて対応している。		

2022年度

事業所名 ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域との協力体制が、まだ築けていない。	地域住民や関係機関（地域包括支援センター等）に地域交流スペースの貸出を再開する。	以前、地域交流スペースを利用されていた地域のサークルの方や地域包括支援センターに再開のお知らせと宣伝を行う。	3ヶ月
2	2	年に2回避難訓練を行っているが、まだ訓練の余地がある。	夜間を想定した避難訓練を、より効果的に実施する。	一人一人の職員が状況に応じて対応できるように課題を与え、その結果をもとに、フロア会議等で話し合う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月